



平成27年2月6日  
国土交通省中部地方整備局  
名古屋港湾事務所

## 名古屋商工会議所「名古屋港研究会」が名古屋港ポートアイランドを視察 ～ 名古屋港のさらなる発展に向けて ～

### ■概要

平成27年2月3日に名古屋商工会議所「地域開発委員会」内に設置されている「名古屋港研究会」の委員の方々が、名古屋港の土砂処分場であるポートアイランドに上陸し、名古屋港の発展のため、現状を視察した。

「名古屋港研究会」は名古屋工業大学 秀島栄三教授を座長とし、名古屋港に関係する企業15社の代表者により構成され、名古屋港の発展に向けて、その時々課題・話題を研究テーマとして定め、活動している。

将来の名古屋港を描くうえで、実際に名古屋港へ訪れ現状を再認識することを目的に、名古屋商工会議所の要請を受け、中部地方整備局名古屋港湾事務所が実施したものの。

当日は、名古屋港湾事務所に集合後、港湾業務艇「翔龍」等に乗船し、ポートアイランドへ向かった。ポートアイランドに上陸した面々は、名古屋港の物流の状況を確認するとともに、ポートアイランドの広さ(約260ヘクタール)に驚いていた。また、このポートアイランドの利活用が今後の名古屋港の発展に向けてのキーになるとの意見もあった。

### ■行程

2月3日(火)10:00～11:30 (参加者25名)

参加者は名古屋港湾事務所に集合後、港湾業務艇「翔龍」等に乗船し、ポートアイランドへ。船内においては、名古屋港湾事務所職員より名古屋港の概要説明を受けた。

ポートアイランド上陸後、周辺を確認。ポートアイランドからは、南には中部国際空港、南西には四日市港、北西～北にはコンテナターミナル、西には企業の専用ふ頭が見渡せる。

再度、船に乗り込みガーデンふ頭で下船し、視察終了。

### ■名古屋港研究会

名古屋商工会議所「地域開発委員会」内に設置されている「名古屋港研究会」では、名古屋港の発展に向けて、その時々課題・話題を研究テーマとして定め活動。



「地域開発委員会」は、当地域の開発整備に関する事項について調査・研究する商工会議所内に常設されている委員会であり、その中に、名古屋港に関する研究組織として更に「名古屋港研究会」がある。

過去の研究テーマとして、コンテナバース・航路といったハード面の整備について、堀川や中川運河のあり方などについて調査・研究を行なっている。

「名古屋港研究会」の企業 15 社は、伊勢湾海運（株）、（株）JTB 中部法人営業名古屋支店、知多埠頭（株）、（財）中部圏社会経済研究所、中部電力（株）、東邦ガス（株）、東陽倉庫（株）トヨタ自動車（株）、豊田通商（株）、名古屋鉄道（株）、日本郵船（株）名古屋支店、（株）フジトランスコーポレーション、三菱重工（株）、名港海運（株）、名鉄観光サービス（株）名古屋伏見支店。

■配布先 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムズ、日本海事新聞、海事プレス

## ■問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所

企画調整課 板生(いたお) TEL 052-651-6763 FAX 052-652-0303

## ■ポートアイランド視察の様子

